

# 適性検査Ⅰ

## 注 意

- 1 問題は4ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立桜修館中等教育学校

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの問題に答えなさい。

(\*印の付いている言葉には、文章のあとに〈言葉の説明〉があります。)

### 文章A

アウトプットする「面白さ」は、インプットする「面白さ」の何十倍も大きい。両方の経験がある人には、理屈抜きで納得できる感覚だろう。いくらでも例が挙げられる。沢山の音楽を聴くよりも、自分で演奏し、歌った方が「面白い」し、またそうすることでしか上達できない。この成長がまた「面白く」感じられる要因として加わる。

あらゆる技は、すべて自分でやってみないとわからない。「やる」とは、アウトプットである。教えられている立場では、なかなか頭に入らなかったものが、人に教えると一度で自分の身につく。僕は、教壇に立って学生に二十数年間講義をしたが、教室にいる誰よりも、僕が一番勉強になった。

子供は、なんでも自分でやりたがる。見ているだけでは面白くないからだ。自分でやってみて、初めて「面白い」ことが本当にわかる。見ただけでは、「面白そう」としかわからない。「面白い」とは、本来アウトプットすることで感じられるものであり、それが本物の「面白さ」なのだ。「何十倍」と強調したが、それは、本質とダミイの差だといっても良い。

小説を読むことはインプットである。ただ文字を読むだけでは「面白く」はない。その物語の中に入る、いわゆる「感情移入」ができる、頭の中でイメージが作られる。これはアウトプットだ。感情

が誘発されるのもアウトプットである。結局は、「面白さ」の本質はここに<sup>①</sup>ある。

(森博嗣「面白いとは何か？面白く生きるには？」)

(一部改変)による)

### 〈言葉の説明〉

ダミイ……本物に似せて作ったもの。

誘発……あることがきっかけとなって、他のことが引き起こされること。

### 文章B

クイズ番組などで「ひらめき」などに焦点を当てたものがありますが、これらの背後には柔軟な思考に対するあこがれと信奉があるように思えてなりません。そこで用いられている材料が、あまり通常の思考には関係のないものだったりすると、その思いを強くします。

思考それも柔軟な思考にあまりに力点が置かれていることに危惧の念を抱いているにすぎません。すなわち、柔軟な思考ばかりに注目して、思考の材料や思考の指針にもなる「知識」の働きを無視しないしは軽視しているのではないかと危惧しているのです。そして、「知識」に質の差があるということに気づいていないのではないかと危惧しているのです。

こう言い換えてもいいかもしれません。「知識」は「知恵」や妥当な解決の単なる材料であって、アウトプットの質にさして関係しないと思われると思います。しかしそうではない、<sup>②</sup>大いに関係するというのがここで述べたいことです。

簡単な例として「割り算」を取り上げてみましょう。

「割り算とはどういう演算ですか？」と問うと、ほとんどの人が「分けることだ」と答えます。確かに、「15個の飴を5人で等しく分けました。ひとりいくつになるでしょう」といった課題であれば、 $15 \div 5$  という割り算をして、ひとり3個になるという結果を得て「分ける演算だ」ということで問題はありませぬ。

しかし、 $2 \div 3$  という分数や  $0.5$  といった小数で割るというのはどういう意味なのでしょう。確かに  $5 \div 2 = 2 \div 3$  は、割る数をひっくり返して掛けることによって答えが得られるというのは、小学校で習うことですから、まず全員できるでしょう。問題は、 $2 \div 3$  で割るという意味です。この時、先ほど出てきた「割り算とは分けることだ」という考えが使えないのは明白です。「 $2 \div 3$  人で等しく分ける」というのは意味をなしません。

あるクルマが、40Lのガソリンで500km走ったとします。この時  $500 \text{ km} \div 40 \text{ L}$  で得られる  $12.5 \text{ km/L}$  という数値は、1Lあたりの走行距離を表しています。いわゆる「燃費」です。逆に  $40 \text{ L} \div 500 \text{ km}$  で得られる数値  $0.08 \text{ L/km}$  という数値は、1km走るのに要したガソリンの量を示しています。どちらでどちらを割るのかは、用途によって異なってきますが、得られた2つの数値は、「割るのに用いた量（距離かガソリンかですが）」の「1あたり」を表しています。これはガソリンが1より小さい量であっても変わりませぬ。「 $6 \cdot 25 \text{ km}$  行くのに  $0.5 \text{ L}$  のガソリンが必要でした」という場合に、 $6 \cdot 25 \text{ km} \div 0.5 \text{ L}$  で得られる  $12.5 \text{ km/L}$  が、1Lあたりの走行距離、燃費を表しているのは明白です。

割り算が「1あたりの値を求める」演算だと考えるなら、先の分数÷分数のような問題でも意味がわかります。長さ  $2 \div 3 \text{ m}$  のパイプの重さが  $5 \div 2 \text{ kg}$  だったとしましょう。この時1mあたりの重さを求めるには  $5 \div 2 \text{ kg} \div 3 \text{ m}$  となり、 $15 \div 4 \text{ (kg/m)}$  という値が得られます。1mの重さは  $15 \div 4 \text{ kg}$  になるわけです。

「割り算」という同じ演算についての知識ですが、「1あたり」という捉えの方が、「分ける」という捉え方より、より広範にものごとを捉えられるのですから、知識として質が良いと言えるでしょう。「1あたり」という捉え方は、「分ける」という捉え方を包含しますし、より広い範囲の割り算を了解でき、より広い範囲で割り算を使えることになるのです。

「1あたり」の「知識」の方が、「分ける」に比較して柔軟に使えるでしょう。同じ割り算に関する2つの「知識」に「差」があるのです。柔軟な思考だけが、アウトプットの柔軟さ・適切さに関わるのではなく、「知識」の違いによっても差を生じるのです。「知識」は思考の質に関係しないわけではないのです。

(西林克彦「知ってるつもり 『問題発見力』を高める『知識システム』の作り方」による)

#### 〈言葉の説明〉

信奉……ある考えを最も良いものとして信じて従うこと。

危惧……あることを心配し、おそれること。

演算……式の示すとおり計算すること。

包含……中にふくんでいること。

〔問題1〕

文章A

に「面白さ」の本質はここにあるとあり

ますが、「ここ」とは何か、本文で挙げられている  
具体例以外で考えられる場面を答えましょう。また、  
それを挙げた理由を、**文章A** 全体をふまえて二十五字  
以内で答えましょう。

（書き方のきまり）

- 読点↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ますに書き  
ましょう。

- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直し  
ましょう。

〔問題2〕

文章B

に大いに関係するとありますが、何が

何に「関係する」と**文章B**の筆者は述べていますか。  
本文で挙げられている具体例を用いて、百字以内で説明  
しましょう。

（書き方のきまり）

- 行をかえたり、段落をかえてはいけません。

- 読点↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ますに書き  
ましょう。

- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直し  
ましょう。

〔問題3〕

文章A

・文章B

を読み、あなたは学校という場で

は、どのような学びがあると考えましたか。また、今後の  
学校生活において、どのように学びに向き合いたいですか。  
それぞれの文章の内容をふまえて、四百字以上五百字  
以内で自分の考えをまとめましょう。第一段落には、  
学校にある学びについて書き、第二段落よりあとには、  
どのように学びに向き合いたいかを書きましょう。

(書き方のきまり)

- 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。書き出しや、段落だんらくをかえるときは、一ます空けて書きましょう。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけとします。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点とくてん↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一ますに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じますに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字と一っしょに同じますに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。